
[成果情報名] 無袋栽培で盆前出荷できる食味良好な早生青ナシ新品種「なつしずく」
[要約] ニホンナシ新品種「なつしずく」は、収穫期が「幸水」より早い8月上旬で、食味、果実肥大の良好な早生の青ナシである。無袋栽培でも果面のサビが少なく、袋掛けの省力化が可能である。

[キーワード] ニホンナシ、なつしずく、青ナシ、無袋栽培、早生

[担当部署] 果樹部・果樹栽培チーム

[連絡先] 092-922-4946

[対象作物] 果樹

[専門項目] 栽培

[成果分類] 品種選定

[背景・ねらい]

本県のナシ栽培は「幸水」、「豊水」が主体の品種構成であるが、労力分散が図れ、市場単価が比較的高い盆前に出荷ができる早生品種が望まれている。そこで、(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所において育成された早生のニホンナシ新品種「なつしずく」の福岡県における特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「なつしずく」は果形が扁円形の青ナシで、果面のサビが少なく無袋栽培が可能である。黒斑病に抵抗性で、病害虫に対しては慣行防除で対応できる。樹勢は中程度～やや強く、新梢の発生は中程度である。短果枝の着生は少～中程度だが、腋花芽の着生は中～多い(図1、一部データ略)。
2. 開花期は「豊水」より遅く「幸水」とほぼ同時期である。また、果実生育日数は117日程度で、「幸水」より収穫期が早く盆前に収穫が可能である(表1)。
3. 果実重は400g程度で「幸水」より大きい。糖度は概ね11度以上で酸味はほとんど感じず、さわやかな味である。年により後期落果が見られ、わずかにみつ症が発生するが、程度は「豊水」より軽い。果実の日持ち性は「幸水」と同程度である。若木の収量は、「豊水」より低い「幸水」より優れる(表2、図2、一部データ略)。
4. 無袋栽培の果実糖度は、有袋栽培の果実より1度程度高い。果実重と糖度の相関はなく、果実重が300g以上であれば糖度は高く食味がよい(表2、一部データ略)。

[成果の活用面・留意点]

1. 品種選定の際の資料として活用できる。
2. 交配親和性は、「幸水」「豊水」とは親和性であるが、「あきづき」とは不親和性である。

[具体的データ]



図1 「なつしずく」の果実（無袋）

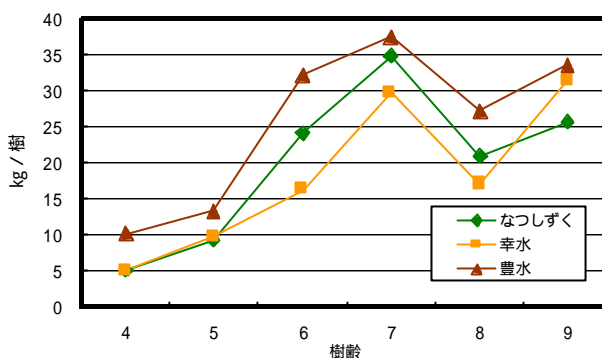


図2 「なつしずく」の1樹当たり収量の年次推移（平成14～19年）

注）樹齢8年（平成18年）、樹齢9年（平成19年）は台風により収量減。

表1 「なつしずく」の開花盛期、収穫期、果実生育日数および積算温度（平成14～19年の平均、筑紫野市）

品種	開花盛期 (月日)	収穫始期 (月日)	収穫盛期 (月日)	収穫終期 (月日)	果実生育 日数 ¹ (日)	積算温度 ² ()
なつしずく	4/8	8/4	8/7	8/12	117	2596
幸水	4/9	8/8	8/12	8/18	120	2693
豊水	4/6	8/23	8/28	9/4	139	3160

注) 1、果実生育日数は開花盛期から果実収穫始期までの日数
2、積算温度は、開花盛期から収穫始期までの日平均気温の和

表2 「なつしずく」の果実品質（平成14～19年の平均）および有袋果実と無袋果実の品質（平成19年）

品種	みつ症 ¹	果実重 (g)	硬度 (lbs)	地色 (カラーチャート)	糖度 (Brix)	pH
なつしずく（有袋）	0.3 ab	409 a	4.7 a	4.0 a	11.9 a	5.2 b
幸水	0 b	346 b	4.4 a	2.9 b	12.5 a	5.4 a
豊水	0.9 a	440 a	4.4 a	2.8 b	12.5 a	4.9 c
なつしずく 無袋	0	458	5.4	2.7	12.8	5.2
なつしずく 有袋	0	444	5.2	3.6	11.9	5.3
有意性	n.s	n.s	n.s	**	**	-

注) 1、みつ症は発生程度を5段階で評価。
発生無し：0、微発生：0.5、少発生：1、中発生：2、多発生：3
2、「幸水」、「豊水」は無袋栽培。
3、Tukey（みつ症、地色はKruskal-Wallis）の多重検定により異符号間に5%で有意差あり。
4、有意性はt検定により**は1%で有意差あり。 n.sは有意差なし。

[その他]

研究課題名：カキ、ナシ等品種・系統適応性

予算区分：経常

研究期間：平成19年度（昭和53年～継）

研究担当者：渡邊辰彦、松田和也、牛島孝策、巢山拓郎、矢羽田第二郎